



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007011	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(細胞が備える動きのしくみ)		
編集担当教員	市川 寿		
授業担当教員名(科目責任者)	市川 寿		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	市川 寿		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	1年		
担当教員Eメールアドレス	ichinon@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	水産学部 新館2階		
担当教員TEL	819-2845		
担当教員オフィスマワー	前期の水曜日5校時		
授業のねらい	多細胞生物は、分化したさまざまな形と機能をもった細胞から成り立っています。細胞が分裂し、それぞれの機能を果たすための構造(形)を得るために、細胞内で分子レベルの“動く仕組み”が働いているという事が近年の研究から明らかになってきました。こうした研究の歴史を踏まえ、生命を考えます。		
授業方法(学習指導法)	授業をきっかけとして当該の分野を自主学習することを求めます。レポート作成、発表/ディスカッション、筆記試験の段階を経ながら理解が深まり、第三者に説明ができるまでの学習を誘導します。		
授業到達目標	生体運動の仕組みを分子レベルまで掘り下げて探求することで生命を理解しようと考えてきた学問分野を知り、履修後に、その概要を伝える能力を獲得する事を目標とします。		
授業内容	回	内容	
	1	生物の動き	
	2	生物の形と動き	
	3	発生と分化、形態形成、遺伝子の差次的発現	
	4	形態形成の基本型	
	5	細胞骨格	
	6	筋収縮の研究から	
	7	筋収縮の仕組みと収縮タンパク質	
	8	筋収縮の調節系とその多様性	
	9	細胞骨格と細胞運動	
	10	細胞運動に関わるタンパク質	
	11	細胞運動の多様性	
	12	細胞から組織へ	
	13	生物の形づくりと生命	
	14	ディスカッション	
	15	ディスカッション	
16	試験		

キーワード	形態形成, 細胞運動
教科書・教材・参考書	授業内容をまとめた資料を配布しますので学習の手引きとしてください。 細胞生物学や生物化学の教科書が、基本的な学習の上で参考になります。
成績評価の方法・基準等	授業要旨をまとめたレポート(20点)と、筆記試験(80点)で成績評価します。得た学術知識を正しく伝達できるまでの能力を獲得しているかどうかを合格基準とします。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	授業をきっかけとして自主学習を進めてください。最終的に、この分野を伝えるサイエンスインタープリターの役割が担えるようになるまで学習を深めて下さい。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	様々な生物に見られる色々な動きについて、努めて注意深く観察して下さい。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007003	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(動物行動の分析学)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]205		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	takahasi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学教育機能開発センター棟2F		
担当教員TEL	095-819-2090 (Ext 2090)		
担当教員オフィスアワー	毎週水曜日12:00~13:00		
授業のねらい	ヒトは、動物の行動を通じて薬物の有用な薬物の開発や危険性の予知など多様な情報を獲得してきた。動物の行動科学を基盤に、ヒトが生きていく上で必要な健康や病気の治療に用いられる医薬品の開発について学び、動物行動科学の応用性と薬物の有用性、有害性について理解する。		
授業方法(学習指導法)	基本的に講義形式で行うが、できるだけ口頭による質疑応答を取り入れ理解度を探りながら進める。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。また、OHPなども利用して理解を進める。		
授業到達目標	動物の行動から何がわかるか説明できるようになる。基本的な動物実験データの推計学的分析ができ、信頼性について理解し、説明できるようになる。薬物の適正使用や乱用薬物の有害性について理解する。		
授業内容	動物の行動の基本事項、動物モデル、行動機能試験、医薬品の適正使用と薬物乱用、動物実験とデータ処理について学び、基本的な動物行動科学を理解する。		
	第16回目：定期試験を行う。		
	回	内容	
	1	授業の進め方 動物の行動(1) 本能行動	
	2	動物の行動(2) 動物実験とその意義、各種疾患モデル動物	
	3	動物の行動機能試験(1) 向精神薬の開発のための動物モデル1	
	4	動物の行動機能試験(2) 向精神薬の開発のための動物モデル2	
	5	動物の行動機能試験(3) 動物と不安、ストレス	
	6	動物の行動機能試験(4) その他の医薬品開発のための動物モデル	
	7	乱用薬物の評価法(1) 医薬品の適正使用と薬物乱用	
	8	乱用薬物の評価法(2) 乱用薬物と動物の行動	
	9	学習・記憶過程の評価法(1) 抗健忘薬・向知性薬と動物の行動	
	10	動物実験とデータ処理(1) 検定法の基礎事項	
	11	動物実験とデータ処理(2) 動物実験で使用される基本的検定法1	
12	動物実験とデータ処理(3) 動物実験で使用される基本的検定法2		
13	動物実験とデータ処理(4) 動物実験で使用される基本的検定法3		

	14	特殊毒性評価法・検定法 メンデルの実験データを考える
	15	全授業の総括
	16	定期試験
キーワード	動物行動科学 動物モデル 乱用薬物 行動分析	
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜、ハンドアウトを配布する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)、随時行う講義中の小テスト(20%)および授業への積極的な参加・貢献度(20%)から総合的に判断して成績評価を行う。	
受講要件(履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。	
本科目の位置づけ	一般教養レベルとして医薬品開発のための動物実験や動物の行動分析を学び、今後の学習への志向、態度を涵養する。	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火4																																		
開講期間																																					
必修選択	選択	単位数	2.0																																		
時間割コード	20110568007009	科目番号	05680070																																		
授業科目名	●生物の科学(ホルモンが支える生命現象)																																				
編集担当教員	長江 真樹																																				
授業担当教員名(科目責任者)	長江 真樹																																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長江 真樹																																				
科目分類	自然科学科目																																				
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																		
教室	[全]429																																				
対象学生(クラス等)																																					
担当教員Eメールアドレス	nagae@nagasaki-u.ac.jp																																				
担当教員研究室	環境科学部3階 環306 長江教員室																																				
担当教員TEL	095-819-2755																																				
担当教員オフィスアワー	月曜日 8時30分～10時																																				
授業のねらい	内分泌機能(ホルモンシステム)は、様々な生体機能の調節に深く関与していることから、多くの生命現象を理解するうえで不可欠な生物学の重要項目である。本講義では毎回、脊椎動物における具体的な生命現象を題材に取り上げ、それが複雑な内分泌機能によってどのように調節されているのかを学ぶことで、内分泌学の素養を身に付ける。																																				
授業方法(学習指導法)	講義形式																																				
授業到達目標	内分泌のしくみ・特徴を説明できる。生命現象の内分泌支配が説明できる。ホルモン等の生体微量分子の測定原理を説明できる。																																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td></tr> <tr><td>2</td><td>内分泌機構とその特徴</td></tr> <tr><td>3</td><td>ホルモンおよびホルモン受容体の種類とその構造</td></tr> <tr><td>4</td><td>種々のホルモンとその生理活性</td></tr> <tr><td>5</td><td>配偶子形成 体細胞分裂と減数分裂</td></tr> <tr><td>6</td><td>配偶子形成のホルモン制御-1</td></tr> <tr><td>7</td><td>配偶子形成のホルモン制御-2</td></tr> <tr><td>8</td><td>妊娠・出産・哺乳とホルモン-1</td></tr> <tr><td>9</td><td>妊娠・出産・哺乳とホルモン-2</td></tr> <tr><td>10</td><td>性分化とホルモン</td></tr> <tr><td>11</td><td>変態とホルモン</td></tr> <tr><td>12</td><td>内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)</td></tr> <tr><td>13</td><td>ホルモン測定技術</td></tr> <tr><td>14</td><td>外部環境要因とホルモン-1</td></tr> <tr><td>15</td><td>外部環境要因とホルモン-2</td></tr> <tr><td>16</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス	2	内分泌機構とその特徴	3	ホルモンおよびホルモン受容体の種類とその構造	4	種々のホルモンとその生理活性	5	配偶子形成 体細胞分裂と減数分裂	6	配偶子形成のホルモン制御-1	7	配偶子形成のホルモン制御-2	8	妊娠・出産・哺乳とホルモン-1	9	妊娠・出産・哺乳とホルモン-2	10	性分化とホルモン	11	変態とホルモン	12	内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)	13	ホルモン測定技術	14	外部環境要因とホルモン-1	15	外部環境要因とホルモン-2	16	試験
回	内容																																				
1	ガイダンス																																				
2	内分泌機構とその特徴																																				
3	ホルモンおよびホルモン受容体の種類とその構造																																				
4	種々のホルモンとその生理活性																																				
5	配偶子形成 体細胞分裂と減数分裂																																				
6	配偶子形成のホルモン制御-1																																				
7	配偶子形成のホルモン制御-2																																				
8	妊娠・出産・哺乳とホルモン-1																																				
9	妊娠・出産・哺乳とホルモン-2																																				
10	性分化とホルモン																																				
11	変態とホルモン																																				
12	内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)																																				
13	ホルモン測定技術																																				
14	外部環境要因とホルモン-1																																				
15	外部環境要因とホルモン-2																																				
16	試験																																				
キーワード	生命現象 内分泌(ホルモン)																																				

教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。
成績評価の方法・基準等	試験(100%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007008	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(DNAからみる生物)		
編集担当教員	吉浦 孝一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	吉浦 孝一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉浦 孝一郎, 木下 晃, 井原 誠, 浦田 芳重		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]430		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	kyoshi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	大学院医歯薬学総合研究科人類遺伝学(医学部原研遺伝)		
担当教員TEL	095-819-7118		
担当教員オフィスアワー	火・木・金曜 13:00 ~ 17:00		
授業のねらい	本授業は、生物(おもにヒト)をDNAおよび細胞の観点, すなわち分子の観点から, 説明することを目的とする。本講義から、生物の多様性について理解が深まれば良いと考えている。新聞・雑誌に掲載される遺伝子や分子遺伝学の関連記事が多く見受けられるが、実際にはかなり高度の内容を含んでいる。短い記事から重要な部分を理解できるようになるには、詳細な知識が必要である。それらのほんの数行の記事が科学的に理解でき、何が大切なのか理解できるような基礎学力の取得を目標にする。		
授業方法(学習指導法)	講義形式ですすめる。初回から、高校までに学習する内容も含め基本的な内容から講義する。従って、高校までに生物学を履修していない者も歓迎する。担当教官は、4人で分担し、オムニバス形式で進行する。講師陣は、遺伝学、放射線生物学、生化学を専門に研究しており、細胞～生物個体をミクロからマクロまでの種々の段階の視点から生物を研究する学問分野の人員で構成される。		
授業到達目標	① 生物についてどのようなことが理解できていて説明可能なのか、説明不可能なのか科学的な理解ができること ② 新聞等で発表される生物学的・医学的な画期的な研究成果を理解できるようになること ③ 生物学が記憶するだけ知識物ではなく、新しく創造されている学問領域であることを理解する ④ 自ら疑問となることを見つけ出すことができるようになること		
授業内容	高校程度の知識を与えるところから初め、新聞を騒がす大きな研究を基礎知識から説明する。最終的には、生物としてのヒト、人間としての人を捉えるときの倫理的な問題点も討論する。 第1回(4月6日): 吉浦: 授業内容の説明、講師の説明、履修届の受領 第2回(4月13日): 吉浦: 細胞の構造・構成 第3回(4月20日): 木下: DNAと遺伝子 第4回(4月27日): 浦田: 転写・翻訳、糖質の生合成 第5回(5月11日): 井原: 生物の始まり(コアセルバート、RNAワールド・・・) 第6回(5月18日): 吉浦: ヒトの遺伝に関する基礎知識 第7回(5月25日): 木下: ES細胞とマウスエンジニアリング 第8回(6月1日): 浦田: 糖質科学からみた生物の生き残り戦略 第9回(6月8日): 井原: 放射線の人体への影響 第10回(6月15日): 吉浦: DNA鑑定(話題になった論文から。リクエスト受け付けます) 第11回(6月22日): 木下: 幹細胞生物学, iPS細胞 第12回(6月29日): 井原: 宇宙生物学 第13回(7月6日): 浦田: 環境と生物のやりとり 第14回(7月13日): 吉浦: 遺伝子万能社会 第15回(7月20日): 吉浦: まとめ、および総合討論(試験を含む)		
キーワード	生物, 遺伝, DNA, 社会, ゲノム		

教科書・教材・参考書	特になし
成績評価の方法・基準等	授業への取り組み状況(20%) 試験による評価(80%)
受講要件(履修条件)	特になし。 受講可能な全ての学部・学生が対象
本科目の位置づけ	今後重要になる生物学、分子生物学、ゲノム医療科学に触れる。
学習・教育目標	知識を有機的に連結し、自分の頭で考えられる。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	特になし。 最近の生物学の話題で講義して欲しいこと、疑問に思っていることを考えておく。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007007	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(バイオサイエンスの進歩_遺伝子・動物・放射線の最近の話題から)		
編集担当教員	松田 尚樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松田 尚樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松田 尚樹,木住野 達也,大沢 一貴,山中 仁木,下崎 康治		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	nuric@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	先導生命科学支援センター アイソトープ実験施設		
担当教員TEL	819-7163		
担当教員オフィスパワー	木曜日 9:00~10:00		
授業のねらい	近年のめざましいバイオサイエンスの発展は、遺伝子解析技術、動物実験技術、放射線応答解析技術などの先端技術、及びそれらにより得られた生命の神秘に迫る最近の知見によるところが大きい。この授業では、これらの技術及び知見を学び、バイオサイエンスの基礎と最新動向を理解できるようにする。		
授業方法(学習指導法)	5名の教員がオムニバス形式で遺伝子、動物、放射線を担当し、PCを用いて講義を行う。		
授業到達目標	(1) 遺伝子: 細胞の構造と機能、遺伝子及びDNAについての基礎を理解する。さらに、ヒトゲノムプロジェクトと人類遺伝学を学び、その進歩について説明できるようにする。 (2) 動物: 動物実験の意義と諸課題、及び実験動物における微生物学的モニタリングと生命工学技術を理解し、バイオサイエンスの進歩に対する実験動物の寄与を正しく説明できるようにする。 (3) 放射線: 放射線の基礎、人体に及ぼす影響、放射線の有効な利用、および放射線の防護体系・防護法について学び、放射線の害と恩恵について、正しい知識に基づき自分の考えを導くことができるようにする。		
授業内容	放射線、動物、遺伝子の順に各担当教員が総論から各論、基礎から応用に向けての授業を展開する。 1~5回 放射線 6~10回 動物 11~15回 遺伝子 16回 定期試験(7/28)		
	回	内容	
	1	放射線とは何か (4/7 松田)	
	2	放射線は我々のからだに何を起こすのか (4/14 松田)	
	3	放射線を利用する (4/21 松田)	
	4	放射線を防護する (4/28 松田)	
	5	放射線リスクと現代社会 (5/12 松田)	
	6	動物実験と外挿 (5/19 大沢)	
	7	実験動物と遺伝学的統御 (5/26 大沢)	
	8	SPF動物と微生物学的モニタリング (6/2 大沢)	
	9	最近の話題紹介 (6/9 山中)	
	10	遺伝子組換え動物と動物実験関連法令 (6/16 大沢)	
	11	ゲノム研究の歴史:ヒトゲノムプロジェクトの概要 (6/23 木住野)	

	12	ゲノム解析の現状	(6/30 木住野)
	13	幹細胞生物学	(7/7 下崎)
	14	クローン動物	(7/14 木住野)
	15	生命の倫理	(7/21 木住野)
	16	定期試験	(7/28)
キーワード			
教科書・教材・参考書	<p>テキストは用いず、授業計画に沿ったプリント資料を配布する。</p> <p>参考図書： 遺伝医学への招待 新川詔夫・阿倍京子共著 南江堂(1,800円) ヒトの分子遺伝学 村松正實 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル(9,800円) 放射線と健康 館野之男著 岩波新書(780円) 他の文献等は適宜紹介する。</p>		
成績評価の方法・基準等	定期試験90%、授業中の課題に対する積極的な取り組み状況10%		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			





長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007010	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(藻類の多様性と系統)		
編集担当教員	飯間 雅文		
授業担当教員名(科目責任者)	飯間 雅文		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	飯間 雅文		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]321		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	iima@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部実験棟2F 202		
担当教員TEL	095-819-2765		
担当教員オフィスアワー	火曜10時半-12時45分		
授業のねらい	<p>藻類は、地球上の生物進化の歴史において、どのような役割を果たしたか？ 地球生態系において、光合成を行い、太陽エネルギーを利用して、二酸化炭素と水から有機物を合成し、酸素を放出した最初の生産者が藻類である。 藻類の存在なしにはヒトを含む全ての動物は誕生できなかった。 陸上植物に比べマイナーな存在である藻類について、30数億年にわたるその進化と多様性の知識を得る。 また、藻類の利用面について、絶滅の危機に瀕する藻類についても紹介し、その知識を得る。</p>		
授業方法(学習指導法)	教科書は用いず、毎回資料プリントと授業概要(レジメ)を配布し、多数の藻類関連ビデオを紹介する。		
授業到達目標	<p>生命の起源から現在に至る藻類の進化の過程の概要が理解できる。 地球生態系における最初の生産者であり、陸上植物の祖先である藻類の重要性が理解できる。 人類が藻類と共生して行かねばならないことを十分に知ることができる。</p>		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション I 藻類の多様性(総論)1 藻類とはどのような分類群か	
	2	I 藻類の多様性(総論)2 現在の分子系統学に基づく地球上の生物の系統	
	3	II 藻類の多様性(各論) 1. 生命の起源～最初の光合成生物(植物の祖先)シアノバクテリア(藍藻)の誕生	
	4	2. 藻類の進化 連続細胞内共生	
	5	3. 紅藻類:原核藻類シアノバクテリアの細胞内共生(一次共生)により最初に誕生した真核藻類	
	6	4. 褐藻類 海中で最も大型化した真核海産藻類	
	7	5. 緑藻類 陸上植物の祖先にあたる真核藻類分類群	
	8	6. 海藻類の生活環(生活史)	
	9	III 藻類の利用 ①食用1	
	10	藻類の利用 ②食用2	
	11	藻類の利用 ③工業用1	

	12	藻類の利用 ④工業用2
	13	IV 絶滅危惧種藻類1
	14	絶滅危惧種藻類2
	15	総復習
	16	試験および指導
キーワード	藻類の定義 シアノバクテリア 微細藻類 海藻 紅藻 褐藻 緑藻	
教科書・教材・参考書	特に教科書は指定せず、毎回資料を配付する。	
成績評価の方法・基準等	定期考査90%、授業への積極的な取り組み姿勢10%	
受講要件(履修条件)	特になし。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007006	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(植物の科学)		
編集担当教員	桑野 和可		
授業担当教員名(科目責任者)	桑野 和可		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	桑野 和可,鈴木 利一		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]227		
対象学生(クラス等)	全学部		
担当教員Eメールアドレス	桑野 kkuwano@ / 鈴木 tsuzuki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	桑野:総合教育研究棟4階/鈴木:水産学部2階		
担当教員TEL	桑野:819-2834/鈴木:819-2821		
担当教員オフィスアワー	桑野:金15:00~17:00/鈴木:講義の前夜		
授業のねらい	授業のねらい:植物の生命活動を支える基本的メカニズムを理解し、一見「静的」な植物が実はとても「動的」に活動していることが実感できるようになることを目的としている。		
授業方法(学習指導法)	必要に応じて、プリントを配布し、講義を進める。定期試験以外に数回のレポート提出を求める。		
授業到達目標	植物の系統、葉緑体の起源、光合成、光応答反応に関する基本的な事項を説明できるようになること。		
授業内容	第16回目:定期試験		
	回	内容	
	1	細胞共生説と植物:植物の特徴と分類体系の変遷(担当 桑野)	
	2	細胞共生説と植物:真核植物の誕生と細胞共生説(担当 桑野)	
	3	細胞共生説と植物:葉緑体の起源(担当 桑野)	
	4	細胞共生説と植物:一次共生と二次共生(担当 桑野)	
	5	光合成のしくみ(明反応):チラコイドとエネルギー生産のしくみ(担当 桑野)	
	6	光合成のしくみ(明反応):光合成色素の役割(担当 桑野)	
	7	光合成のしくみ(明反応):2つの光化学系(担当 桑野)	
	8	光合成のしくみ(明反応):電子の流れとZスキーム(担当 桑野)	
	9	光合成のしくみ(暗反応):炭酸固定とルビスコ(担当 桑野)	
	10	光合成のしくみ(暗反応):C3植物と光呼吸(担当 桑野)	
	11	光合成のしくみ(暗反応):C3植物、C4植物、CAM植物の違い(担当 桑野)	
	12	海の中の植物(担当 鈴木)	
	13	海洋の基礎生産と光環境(担当 鈴木)	
	14	海洋の基礎生産と栄養塩環境(担当 鈴木)	
	15	植物プランクトンの食物連鎖、植物プランクトンと炭素循環(担当 鈴木)	
16			
キーワード	光合成、細胞内共生、光発芽、光周性、屈光性、植物プランクトン		

教科書・教材・参考書	桑野担当分の参考書: テイツ・ザイガー植物生理学 第3版 西谷和彦/島崎研一郎監訳 培風館 鈴木担当分の教科書: 講義中に適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	定期試験90%(配分: 桑野担当分は65%、鈴木担当分は35%) レポート10%(配分: 桑野担当分は65%、鈴木担当分は35%)
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	高校生物では扱わなかった光合成のしくみ、光応答反応のしくみを詳細に学習することで、単なる暗記ではなく、原理的な理解を目指す。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	講義中に配布する資料をよく読んで講義に参加すること。必要に応じて、レポートの提出を求める。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金4																																		
開講期間																																					
必修選択	選択	単位数	2.0																																		
時間割コード	20110568007012	科目番号	05680070																																		
授業科目名	●生物の科学(分子と生命)																																				
編集担当教員	岡田 幸雄																																				
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 幸雄																																				
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 幸雄,根本 孝幸,岡元 邦彰																																				
科目分類	自然科学科目																																				
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																		
教室	[全]430																																				
対象学生(クラス等)	全学部																																				
担当教員Eメールアドレス	okada@nagasaki-u.ac.jp																																				
担当教員研究室	歯学部A棟4階403号室																																				
担当教員TEL	095-819-7637																																				
担当教員オフィスアワー	水曜日 16:00-18:00, 教員研究室 またはメールにて																																				
授業のねらい	生命現象を担う基本分子であるタンパク質や遺伝子の構造とその働きを理解しよう。これらの生体分子の活動の場である細胞の構造と機能を学ぼう。さらに、これらが統合された形でどのように生命活動を営むかを理解しよう。本授業により生物学の基礎を理解することに加え、生命科学の今日的課題の意味について理解することも本授業の狙いとしている。																																				
授業方法(学習指導法)	教科書は用いず、主に液晶プロジェクターを使用し一部板書で授業を進める。																																				
授業到達目標	生体高分子の構造と機能を説明できる。生命の進化を説明できる。細胞内及び細胞間の細胞の活動を説明できる。神経系、感覚系及び運動系の機能を説明できる。																																				
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>4月 8日 イントロ/生命の基本単位/喫煙しても癌にならない人もいる? (根本孝幸)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4月 15日 個体発生の不思議:クローン動物の誕生 (根本孝幸)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4月 22日 生物の進化と遺伝 (根本孝幸)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5月 6日 遺伝子構造の解明 (根本孝幸)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5月 13日 遺伝子からタンパク質へ (根本孝幸)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5月 20日 膜の構造 (岡元邦彰)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5月 27日 膜を通した輸送 (岡元邦彰)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>6月 3日 細胞内区画と細胞内輸送 (岡元邦彰)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6月 10日 細胞の情報伝達 (岡元邦彰)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>6月 17日 細胞周期の調節と細胞死 (岡元邦彰)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>6月 24日 神経細胞の働き (岡田幸雄)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>7月 1日 感覚I:視覚と聴覚 (岡田幸雄)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>7月 8日 感覚 II:味覚と嗅覚 (岡田幸雄)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>7月 15日 脳の働き:高次の精神活動と本能活動 (岡田幸雄)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>7月 22日 細胞運動 (岡田幸雄)</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>期末試験</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	4月 8日 イントロ/生命の基本単位/喫煙しても癌にならない人もいる? (根本孝幸)	2	4月 15日 個体発生の不思議:クローン動物の誕生 (根本孝幸)	3	4月 22日 生物の進化と遺伝 (根本孝幸)	4	5月 6日 遺伝子構造の解明 (根本孝幸)	5	5月 13日 遺伝子からタンパク質へ (根本孝幸)	6	5月 20日 膜の構造 (岡元邦彰)	7	5月 27日 膜を通した輸送 (岡元邦彰)	8	6月 3日 細胞内区画と細胞内輸送 (岡元邦彰)	9	6月 10日 細胞の情報伝達 (岡元邦彰)	10	6月 17日 細胞周期の調節と細胞死 (岡元邦彰)	11	6月 24日 神経細胞の働き (岡田幸雄)	12	7月 1日 感覚I:視覚と聴覚 (岡田幸雄)	13	7月 8日 感覚 II:味覚と嗅覚 (岡田幸雄)	14	7月 15日 脳の働き:高次の精神活動と本能活動 (岡田幸雄)	15	7月 22日 細胞運動 (岡田幸雄)	16	期末試験
回	内容																																				
1	4月 8日 イントロ/生命の基本単位/喫煙しても癌にならない人もいる? (根本孝幸)																																				
2	4月 15日 個体発生の不思議:クローン動物の誕生 (根本孝幸)																																				
3	4月 22日 生物の進化と遺伝 (根本孝幸)																																				
4	5月 6日 遺伝子構造の解明 (根本孝幸)																																				
5	5月 13日 遺伝子からタンパク質へ (根本孝幸)																																				
6	5月 20日 膜の構造 (岡元邦彰)																																				
7	5月 27日 膜を通した輸送 (岡元邦彰)																																				
8	6月 3日 細胞内区画と細胞内輸送 (岡元邦彰)																																				
9	6月 10日 細胞の情報伝達 (岡元邦彰)																																				
10	6月 17日 細胞周期の調節と細胞死 (岡元邦彰)																																				
11	6月 24日 神経細胞の働き (岡田幸雄)																																				
12	7月 1日 感覚I:視覚と聴覚 (岡田幸雄)																																				
13	7月 8日 感覚 II:味覚と嗅覚 (岡田幸雄)																																				
14	7月 15日 脳の働き:高次の精神活動と本能活動 (岡田幸雄)																																				
15	7月 22日 細胞運動 (岡田幸雄)																																				
16	期末試験																																				

キーワード	生体高分子, 酵素, 細胞, 生体膜, 神経, 感覚, 運動
教科書・教材・参考書	教科書は用いず, 授業内容に沿ってプリント資料を配布する。 参考図書は適宜紹介する。
成績評価の方法・基準等	授業中に実施する小テストの成績(30%), 期末試験の成績(70%)により評価する。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	本科目の内容は, 生物学でもやや動物に関する事象が中心となる。基礎生物学の分野と共に, 一般の人々の生活にもかかわりのある事象も取り扱っている。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	なし



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007002	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(生体分子の構造と機能)		
編集担当教員	畠山 智充		
授業担当教員名(科目責任者)	畠山 智充		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畠山 智充, 田中 修司, 郷田 秀一郎		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]103		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	畠山智充: thata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館生体機能工学実験室3-2		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	随時(できるだけ前もってメールで問い合わせること)		
授業のねらい	生命を理解するためには生物を構成する様々な生体分子の構造とそれらの間の相互作用を理解する必要がある。この講義では、生命活動の基本となる生体分子の構造と機能を理解するとともに、それらの相互作用がどのように生命活動に重要な役割を果たしているかについて学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	講義形式で行うが、口頭による質疑応答をできる限り取り入れ、重要な事項についての理解を深めるための補助とするとともに理解の到達度を確認する。		
授業到達目標	生体の主要成分(タンパク質、核酸、糖、脂質)の特性および機能を理解し、説明できる。		
授業内容	<p>生体を構成する物質には、タンパク質、核酸、糖、脂質などがあり、それらの相互作用によって生命活動が成り立っている。なかでもタンパク質と核酸(DNA・RNA)は生命活動の最も中心的な役割を担っていることから、タンパク質と核酸を中心として生体分子の構造と機能について講義を行う。</p> <p>第1回 生命科学の基礎 第2回 生体を構成している物質(アミノ酸とタンパク質) 第3回 生体を構成している物質(糖質・脂質) 第4回 生体を構成している物質(核酸) 第5回 タンパク質の構造と機能(タンパク質の構造) 第6回 タンパク質の構造と機能(タンパク質の機能) 第7回 細胞内のエネルギー代謝 第8回 遺伝情報の流れ(DNAの複製) 第9回 遺伝情報の流れ(転写と翻訳) 第10回 細胞の増殖(細胞周期) 第11回 細胞の増殖(発生・分化) 第12回 細胞の様々な機能(細胞情報伝達) 第13回 細胞の様々な機能(生体防御と免疫) 第14回 生物の進化と多様性 第15回 全授業の総括(試験を含む)</p>		
キーワード	タンパク質、遺伝子、バイオテクノロジー		
教科書・教材・参考書	「はじめて学ぶ 生命科学の基礎」 畠山智充・小田達也(編著) 化学同人		
成績評価の方法・基準等	期末試験(80%)、レポートおよび授業における積極的取り組み状況(20%)を考慮して成績評価を行う。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水4																										
開講期間																													
必修選択	選択	単位数	2.0																										
時間割コード	20110568007004	科目番号	05680070																										
授業科目名	●生物の科学(動物行動の分析学)																												
編集担当教員	高橋 正克																												
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克																												
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克																												
科目分類	自然科学科目																												
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																										
教室	[全]102																												
対象学生(クラス等)	全学部																												
担当教員Eメールアドレス	takahasi@nagasaki-u.ac.jp																												
担当教員研究室	大学教育機能開発センター棟2F																												
担当教員TEL	095-819-2090 (Ext 2090)																												
担当教員オフィスアワー	毎週水曜日12:00~13:00																												
授業のねらい	ヒトは、動物の行動を通じて薬物の有用な薬物の開発や危険性の予知など多様な情報を獲得してきた。動物の行動科学を基盤に、ヒトが生きていく上で必要な健康や病気の治療に用いられる医薬品の開発について学び、動物行動科学の応用性と薬物の有用性、有害性について理解する。																												
授業方法(学習指導法)	基本的に講義形式で行うが、できるだけ口頭による質疑応答を取り入れ理解度を探りながら進める。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。また、OHPなども利用して理解を進める。																												
授業到達目標	動物の行動から何がわかるか説明できるようになる。基本的な動物実験データの推計学的分析ができ、信頼性について理解し、説明できるようになる。薬物の適正使用や乱用薬物の有害性について理解する。																												
授業内容	<p>動物の行動の基本事項、動物モデル、行動機能試験、医薬品の適正使用と薬物乱用、動物実験とデータ処理について学び、基本的な動物行動科学を理解する。</p> <p>第16回目:定期試験を行う。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業の進め方 動物の行動(1) 本能行動</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>動物の行動(2) 動物実験とその意義、各種疾患モデル動物</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動物の行動機能試験(1) 向精神薬の開発のための動物モデル1</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>動物の行動機能試験(2) 向精神薬の開発のための動物モデル2</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>動物の行動機能試験(3) 動物と不安、ストレス</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>動物の行動機能試験(4) その他の医薬品開発のための動物モデル</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>乱用薬物の評価法(1) 医薬品の適正使用と薬物乱用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>乱用薬物の評価法(2) 乱用薬物と動物の行動</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>学習・記憶過程の評価法(1) 抗健忘薬・向知性薬と動物の行動</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>動物実験とデータ処理(1) 検定法の基礎事項</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>動物実験とデータ処理(2) 動物実験で使用される基本的検定法1</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>動物実験とデータ処理(3) 動物実験で使用される基本的検定法2</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	授業の進め方 動物の行動(1) 本能行動	2	動物の行動(2) 動物実験とその意義、各種疾患モデル動物	3	動物の行動機能試験(1) 向精神薬の開発のための動物モデル1	4	動物の行動機能試験(2) 向精神薬の開発のための動物モデル2	5	動物の行動機能試験(3) 動物と不安、ストレス	6	動物の行動機能試験(4) その他の医薬品開発のための動物モデル	7	乱用薬物の評価法(1) 医薬品の適正使用と薬物乱用	8	乱用薬物の評価法(2) 乱用薬物と動物の行動	9	学習・記憶過程の評価法(1) 抗健忘薬・向知性薬と動物の行動	10	動物実験とデータ処理(1) 検定法の基礎事項	11	動物実験とデータ処理(2) 動物実験で使用される基本的検定法1	12	動物実験とデータ処理(3) 動物実験で使用される基本的検定法2
回	内容																												
1	授業の進め方 動物の行動(1) 本能行動																												
2	動物の行動(2) 動物実験とその意義、各種疾患モデル動物																												
3	動物の行動機能試験(1) 向精神薬の開発のための動物モデル1																												
4	動物の行動機能試験(2) 向精神薬の開発のための動物モデル2																												
5	動物の行動機能試験(3) 動物と不安、ストレス																												
6	動物の行動機能試験(4) その他の医薬品開発のための動物モデル																												
7	乱用薬物の評価法(1) 医薬品の適正使用と薬物乱用																												
8	乱用薬物の評価法(2) 乱用薬物と動物の行動																												
9	学習・記憶過程の評価法(1) 抗健忘薬・向知性薬と動物の行動																												
10	動物実験とデータ処理(1) 検定法の基礎事項																												
11	動物実験とデータ処理(2) 動物実験で使用される基本的検定法1																												
12	動物実験とデータ処理(3) 動物実験で使用される基本的検定法2																												

	13	動物実験とデータ処理(4)動物実験で使用される基本的検定法3
	14	特殊毒性評価法・検定法 メンデルの実験データを考える
	15	全授業の総括
	16	定期試験
キーワード	動物行動科学 動物モデル 乱用薬物 行動分析	
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜、ハンドアウトを配布する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(60%)、随時行う講義中の小テスト(20%)および授業への積極的な参加・貢献度(20%)から総合的に判断して成績評価を行う。	
受講要件(履修条件)	原則として全回出席することを単位認定の要件とする。	
本科目の位置づけ	一般教養レベルとして医薬品開発のための動物実験や動物の行動分析を学び、今後の学習への志向、態度を涵養する。	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20110568007001	科目番号	05680070
授業科目名	●生物の科学(遺伝子から細胞まで)		
編集担当教員	尾崎 恵一		
授業担当教員名(科目責任者)	尾崎 恵一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾崎 恵一, 谷村 進		
科目分類	自然科学科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[全]104		
対象学生(クラス等)	学部1、2年生が望ましい		
担当教員Eメールアドレス	kozak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部 4F 細胞制御学研究室		
担当教員TEL	095-819-2418		
担当教員オフィスアワー	9:00~17:00		
授業のねらい	遺伝子から細胞までの基礎から応用に至るまでの最新の生命現象の知識を説明する。さらに、疾患やその治療薬まで言及することで、その知識の応用例について考える機会とする。		
授業方法(学習指導法)	パワーポイントによる映写、補足プリントの配布		
授業到達目標	遺伝子から細胞に至るまでの生命現象の基礎を習得する。		
授業内容	回	内容	
	1	生物の不思議 (1) (谷村)	
	2	生物の不思議 (2) (谷村)	
	3	生物の不思議 (3) (谷村)	
	4	生物の不思議 (4) (谷村)	
	5	生物の不思議 (5) (谷村)	
	6	生物の不思議 (6) (谷村)	
	7	生物の不思議 (7) (谷村)	
	8	遺伝の基礎について 概論 (尾崎)	
	9	ユニークな遺伝子 1 (尾崎)	
	10	ユニークな遺伝子 2 (尾崎)	
	11	ユニークな遺伝子 3 (尾崎)	
	12	ユニークな遺伝子 4 (尾崎)	
	13	ユニークな遺伝子 5 (尾崎)	
	14	ユニークな遺伝子 6 (尾崎)	
	15	遺伝調査レポート発表会 (尾崎)	
16			
キーワード	生物 細胞 遺伝子 がん 薬		
教科書・教材・参考書	参考図書は適宜指示する。		

成績評価の方法・基準等	出席(50%) レポート(50%)および発表に対する評価を総合して判定する。
受講要件(履修条件)	生命科学に興味を持っていること。
本科目の位置づけ	生命科学の基礎、概論
学習・教育目標	生命科学の基礎を理解する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_自然科学科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金4																								
開講期間																											
必修選択	選択	単位数	2.0																								
時間割コード	20110568007005	科目番号	05680070																								
授業科目名	●生物の科学(熱帯の環境と熱帯病)																										
編集担当教員	和田 昭裕																										
授業担当教員名(科目責任者)	和田 昭裕																										
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 昭裕, 菊池 三穂子, 野崎 慎仁郎, 富田 明子, 川田 均																										
科目分類	自然科学科目																										
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																								
教室	[全]429																										
対象学生(クラス等)	全学部																										
担当教員Eメールアドレス	a-wada@nagasaki-u.ac.jp																										
担当教員研究室	熱帯医学研究所 細菌学																										
担当教員TEL	819-7833																										
担当教員オフィスパワー	毎週金曜日 10:00-13:00																										
授業のねらい	熱帯の環境、ヒトと微生物の関係を理解し、熱帯病に対してどのような取り組みがなされているか知る。																										
授業方法(学習指導法)	講義方式																										
授業到達目標	病原性微生物の感染と防御のしくみを理解し、対策について自分の考えを持てるようになることを期待する。																										
授業内容	<p>(概要)本講義では、熱帯地域の自然と人々の生活、感染に対する生体防御機構、病原性微生物とその感染症、昆虫で媒介される感染症、感染症対策についての概説と討論をおこなう。</p> <p>第1回:オリエンテーション 第2,3回:感染に対する生体の防御機構 第4-7回:病原性微生物とその感染症 第8回:熱帯地域の環境と生活 第9,10回:感染症を媒介する昆虫 第11-14回:熱帯病への対策 第15回:まとめと質疑応答 (講義する教官の都合により講義の順番が変わる可能性があります)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>10月7日(金)オリエンテーション</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>10月14日(金)感染と防御について(1)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>10月21日(金)感染と防御について(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>10月28日(金)病原性微生物とその感染症:寄生虫</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>11月4日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(1)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>11月11日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(2)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>11月18日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(3)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>11月25日(金)熱帯地域の環境と生活</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>12月2日(金)感染症を媒介する昆虫(1)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>12月9日(金)感染症を媒介する昆虫(2)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>12月16日(金)インフルエンザ制御ネットワークの構築</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	10月7日(金)オリエンテーション	2	10月14日(金)感染と防御について(1)	3	10月21日(金)感染と防御について(2)	4	10月28日(金)病原性微生物とその感染症:寄生虫	5	11月4日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(1)	6	11月11日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(2)	7	11月18日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(3)	8	11月25日(金)熱帯地域の環境と生活	9	12月2日(金)感染症を媒介する昆虫(1)	10	12月9日(金)感染症を媒介する昆虫(2)	11	12月16日(金)インフルエンザ制御ネットワークの構築
回	内容																										
1	10月7日(金)オリエンテーション																										
2	10月14日(金)感染と防御について(1)																										
3	10月21日(金)感染と防御について(2)																										
4	10月28日(金)病原性微生物とその感染症:寄生虫																										
5	11月4日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(1)																										
6	11月11日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(2)																										
7	11月18日(金)病原性微生物とその感染症:微生物(3)																										
8	11月25日(金)熱帯地域の環境と生活																										
9	12月2日(金)感染症を媒介する昆虫(1)																										
10	12月9日(金)感染症を媒介する昆虫(2)																										
11	12月16日(金)インフルエンザ制御ネットワークの構築																										

	12	1月6日(金)橋本イニシアチブ、日本の寄生虫対策
	13	1月20日(金)国際保健協力
	14	1月27日(金)国際保健協力
	15	2月3日(金)まとめと質疑応答
	16	
キーワード	熱帯病、感染防御、感染症、環境、微生物、熱帯病対策	
教科書・教材・参考書	指定図書なし	
成績評価の方法・基準等	理解度判定の試験結果(70%)と講義における評価(30%)等を考慮して行なう。レポートも評価の対象とすることがある。	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.